

3. カリキュラム実施に向けて

「幼保小の架け橋プログラム」・
「架け橋期のカリキュラム」の実施に向けて
～南部幼小モデル校・園から
竹田市全体の取組へ～



「架け橋期のカリキュラム開発会議」の設置

「『竹田市架け橋期のカリキュラム』開発会議」(教育長参加)

【構成員】18名

- ・モデル校 校長・教諭
- ・モデル園 副園長・教諭
- ・こども園代表 園長(市町村幼児教育アドバイザー)
- ・保育所代表 所長(市町村幼児教育アドバイザー)
- ・私立幼稚園代表 園長
- ・大分大学教育学部 准教授
- ・大分県教育庁幼児教育センター 2名
*うち1名「架け橋期のコーディネーター」
- ・作業療法士(「体づくりプログラム」を行うため) 2名
- ・保護者代表(園・小学校各1名) 2名
- ・社会福祉課(課長を含む) 2名
- ・学校教育課(課長を含む) 2名



担当部局どうしの連携

竹田市幼児教育アドバイザーの活用

「架け橋期のカリキュラム開発作業部会」の設置

「『竹田市架け橋期のカリキュラム』開発作業部会」

*主としてモデル校・園が作業

【構成員】場合によっては、校・園に分かれて作業

- ・モデル校
校長(園長兼務)・教頭(副園長兼務)・教務・1年生担任
- ・モデル園 全員
- ・県教育庁幼児教育センター
(架け橋期のコーディネーター)
- ・学校教育課指導主事

*拡大作業部会の場合

【構成員】

- ・開発会議委員の幼児教育施設の長 3名
- ・モデル校園代表 1名
- ・県教育庁幼児教育センター 2名
- ・学校教育課(課長を含む)
- ・社会福祉課

⇒作業部会の途中経過を委員の大分大学教育学部麻生教授に報告し、指導・助言を得る



架け橋期のカリキュラムの作成までに (南部幼小モデル校・園)

1. 事例をとる

2. 遊びや学びのプロセスを見取る

3. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに資質・能力等を見取る

見える化

互いの理解

4. 互いのつながりを考える

架け橋期のカリキュラムの作成について (南部幼小モデル校・園中心に)

①②③④⇒竹田市で共通しておこなうもの
「竹田市架け橋期のカリキュラム開発会議 作業部会」で作成したもの

⑤⑥⑦⇒各園・小学校で作成するもの
現在していることを各園・小学校で見直し、共通理解を図りながら作成するもの

- P3 「竹田市架け橋期のカリキュラム(南部幼小モデルプラン)」
- P5 「竹田市架け橋期のカリキュラム(作成の視点)」

①「架け橋期に期待する子ども像」(共通)

「架け橋期に期待する子ども像」を市町村の教育ビジョンや現在の子どもの姿等から設定する

主体的に学び未来を創造する子ども ー将来の予測が困難な時代において、情報を活用しながら他者と協力し自分の考えを形成していくとともに主体的に学び続ける子どもを育成するー
○重点目標:○情報活用能力 ○協働的な学び ○自分の考えを形成する力 ○主体的に学び続ける意欲
考えをもち表現する子 伝え合い認め合う子 探究心をもち粘り強く取り組む子

「架け橋期に期待する子ども像」をどのようにして設定したか

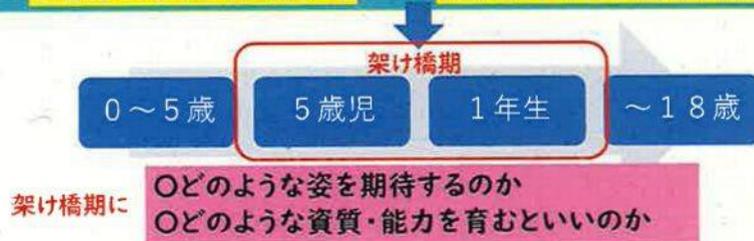
令和4年度竹田市学校教育ビジョン

【基本方針】主体的に学び、未来を創造する子どもの育成

【重点目標】

将来の予測が困難な時代において、情報を活用しながら他者と協力し自分の考えを形成していくとともに主体的に学び続ける子どもを育成する

- 情報活用能力
- 協働的な学び
- 自分の考えを形成する力
- 主体的に学び続ける意欲



「架け橋期に期待する子ども像」をどのようにして設定したか

令和4年度「幼保こ小合同研修会」(ブロック別・全教職員参加)
【目的】幼児教育と小学校教育の連携と接続・「架け橋プログラム」の理解
【内容】・小学校1年生の授業公開
・講義・演習「幼児教育と小学校教育の連携と接続の推進について
～『架け橋プログラム』の実施に向けて～」

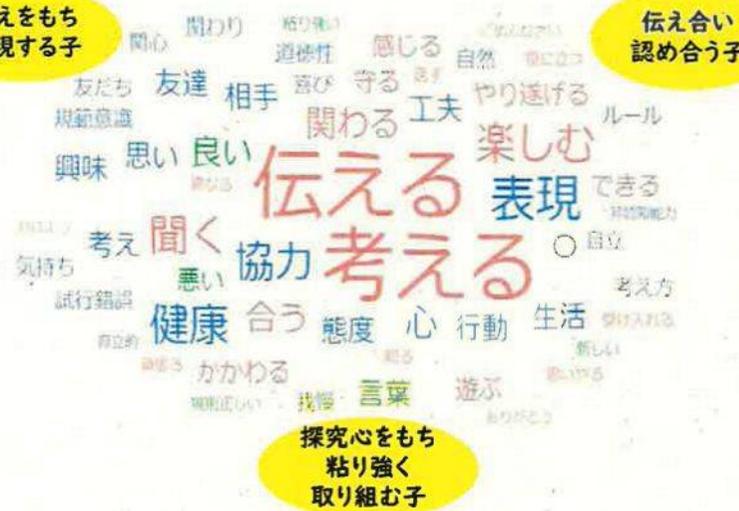
● P17

研修会を踏まえ、竹田市の教育ビジョンや現在の子どもの姿等をもとに、「架け橋期に期待する子ども像」について、各小学校・園からアンケートをとる

教育委員会がとりまとめる

カリキュラム開発会議(架け橋協議会等)で協議・決定

考えをもち
表現する子



伝え合い
認め合う子

探究心をもち
粘り強く
取り組む子

② 「架け橋期に期待する子ども像」の 具体化（共通）

「架け橋期に期待する子ども像」に向けて、
 幼児期の終わりまでにどのような資質・能力を育みたいか、子どもの姿を具体化する
 「考えをもち表現する子」
 「伝え合い認め合う子」
 「探究心をもち粘り強く取り組む子」

考えをもち
表現する子

○ものの性質や仕組みなどを感じ取りたり気づいたりする(知・技の基礎)
 ○豊かな言葉や表現を身に付ける(知・技の基礎)
 ○経験したことや感じたことなどを表現する(思・判・表の基礎)

伝え合い
認め合う子

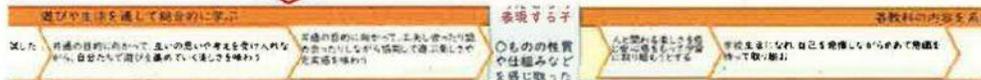
○自分と異なる考えに気づき互いの考えなどを共有する(知・技の基礎)
 ○自ら判断したり考え直したりする(思・判・表の基礎)
 ○友だちと考

③遊びや学びのプロセス（共通）

「架け橋期に期待する子ども像」の育成に向けて、
 遊びや学びのプロセスをどのように深めていくのか

④5歳児に必要な経験や体験（共通）

②のような子どもたちを育てるには、5歳児には
 どのような経験や体験が必要なのか



- 体を十分に動かして、いろいろな運動や遊びに臨んで取り組む（戸外で、友だちと一緒にするなど）
- 友だちの姿を聞き、互いの思いや考えを伝え合いながら、友だちと目的を共有し協同することを楽しむ（考える、伝え合う、工夫する、認め合う、協力する、見過しをもつ、折り合いをつける、ルールの共有など）
- 数量や図形、文字などに興しみ、遊びや生活の中で使う楽しさを感じる
- 身近な自然や動植物に興味や関心をもち、関わる（世話をする、遊びに取り入れる、仕組みに気づくなど）
- 絵本や物語などに興しみ、言葉やイメージを豊かにする
- 様々な出来事や素材に触れ感じたことや考えたことを表現して楽しむ（歌う、楽器を使う、かく、つくるなど）

架け橋期のカリキュラムの評価・改善 (南部幼小モデル校・園にて)

「竹田市架け橋期のカリキュラム」(南部幼小モデルプラン)の 検証

南部小学校・幼稚園の公開授業・保育

及び幼小合同研修会(R5年6月・11月)

- ・「期待する子ども像」に沿った授業・保育の検証 P17
- ・「竹田市架け橋期のカリキュラム(南部幼小モデルプラン)」改訂版の発行 P3
- ・遊びや学びのプロセスシート発行 P21
(南部幼稚園・小学校の実践からプロセスと資質・能力を見取ったもの)
- ・幼小「学びのつながり」シート(南部幼稚園)発行(協働) P41
⇒「学びのつながり」の見える化, 小学校・家庭・地域への理解促進へ



架け橋期のカリキュラムの評価・改善 (南部幼小モデル校・園にて)

南部幼稚園・小学校の教育課程の見直し・作成

- 南部幼稚園教育課程案の見直し
・項目の検討 ・教育課程案作成 P13
- 南部小学校教育課程案(1年)の見直し
・単元配列表(1年)の付加・修正 P14
・スタートカリキュラムの見直し(幼小で) P15
・幼小交流活動計画の頁作成 P35

↓
評価・改善を継続

架け橋期のカリキュラムの作成に向けて (市内全校・園にて)

ブロック別研修会の実施

各園・小学校の教育課程・指導計画等の作成

- 各園カリキュラムの作成
・施設長等研修会(拡大作業部会)の実施
・モデル案をもとに自園のカリキュラムを見直し, 作成
- 各小学校カリキュラムの作成
・モデル案をもとに自校のカリキュラムを見直し, 作成

↓
互いのカリキュラムの交流・幼小交流活動の計画・位置づけ等
⇒「架け橋期のカリキュラム」の各校・園版作成(ブロック別)

見直しの視点

見直しの視点①

園で展開される主な活動について

- ・プロセスや必要な体験に沿ったものになっているか？
- ・期待する子ども像に向かっているものになっているか？
- ・(資質・能力が育まれるようなものになっているか？)

見直しの視点②

園・小どちらも「期待する子ども(像)を育てるために必要な「指導上の配慮事項」は他にはないか？

見直しの視点③

幼小の連携についても記入した方がいいのではないか？
⇒項目の追加

竹田市架け橋期のカリキュラム (南部幼小モデルプラン)

学年	1	2	3	4	5	6
竹田市教育ビジョン	主体的に学び未来を創造する子ども 一歩先の学びを体験し時代に即して、情報活用しながら進歩と創造の心を育みながら成長を遂げていくとともに主体的に学び続ける子どもを育てる					
目指す子ども像	考える力をもち、自ら学ぶ子		伝え合いの心をもつ子		探究心をもち粘り強く取り組む子	
学びの目標	<p>【総合的な学習の時間】</p> <p>【国語】</p> <p>【算数】</p> <p>【理科】</p> <p>【社会】</p> <p>【道徳】</p> <p>【体育】</p> <p>【芸術】</p> <p>【外国語】</p> <p>【特別活動】</p> <p>【家庭科】</p> <p>【保健体育】</p> <p>【職業体験】</p> <p>【地域学習】</p> <p>【生涯学習】</p>					
園で展開される主な活動	<p>【総合的な学習の時間】</p> <p>【国語】</p> <p>【算数】</p> <p>【理科】</p> <p>【社会】</p> <p>【道徳】</p> <p>【体育】</p> <p>【芸術】</p> <p>【外国語】</p> <p>【特別活動】</p> <p>【家庭科】</p> <p>【保健体育】</p> <p>【職業体験】</p> <p>【地域学習】</p> <p>【生涯学習】</p>					
幼小の連携	<p>【1学期】幼小交流活動事前・事後の打ち合わせ/生活学習・授業/ 校庭幼小共同研修会/小学校授業公開/幼小共同研修会(アプローズ)</p> <p>【2学期】幼小交流活動事前・事後の打ち合わせ/生活学習・授業/ 校庭幼小共同研修会/園公開保育/園幼小共同研修会(アプローズ)</p> <p>【3学期】幼小交流活動事前・事後の打ち合わせ/生活学習・授業/ 校庭幼小共同研修会/園公開保育/園幼小共同研修会(アプローズ)</p>					
家庭や地域との連携	<p>竹田市子ども「せいせつTOPIC」(幼児版)の活用</p> <p>「幼小っ子 生活の約束」</p> <p>「幼小っ子 生活の約束」</p>					

見直しの視点①

小学校の生活科を中心とした単元構成について

- ・幼児期からつながる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
- ・合科的・関連的指導等の見直し

見直しの視点④

「家庭や地域との連携」の取組は他にはないか？

4. 年間指導計画 (南部幼稚園 5歳児)

令和6年度 竹田市立南部幼稚園 年間指導計画

園の教育目標：心豊かでたくましく生きる子どもの育成		めざす園児像：かんがえる子 やさしい子 たくましい子				育みたい資質能力
架け橋期に期待する子ども像(竹田市)		★考えをもち表現する子 ★伝え合い認め合う子 ★探究心をもち粘り強く取り組む子				考えをもち表現する子
五領域 -家庭 -人間関係 -環境 -言葉 -表現	<ul style="list-style-type: none"> ◎体を十分に動かして、いろいろな運動や遊びに楽しんで取り組む(戸外で、友だちと一緒にするなど) ◎友だちの話を聞き、互いの思いや考えを伝え合いながら、友だちと目的を共有し協同することを楽しむ(考える、伝え合う、工夫する、認め合う、協力する、見通しをもつ、折り合いをつける、ルールを共有など) ◎数量や図形、文字などに親しみ、遊びや生活の中で使う楽しさを感じる ◎身近な自然や動植物に興味や関心をもち、関わる(世話をする、遊びに取り入れる、仕組みに気づくなど) ◎絵本や物語などに親しみ、言葉やイメージを豊かにする(絵本、ことばあそびなど) ◎様々な出来事や素材に触れ感じたことや考えたことを表現して楽しむ(歌う、楽器を使う、かく、つくるなど) 	<p>Ⅰ期(4月 5月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎新しい生活や環境に慣れ、教師や友だちに親しみをもち、安心して過ごす ◎教師や友だちとすすんで挨拶や返事をする ◎教師や友だちと一緒に簡単な歌やリズムを楽しむ ◎身近な自然や動植物に興味を持ち、触れたり、遊んだり、世話をしたりする ◎教師や友だちと食べたことを楽しむ <p>Ⅱ期(6月 7月 8月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎身近な自然や事象に関心をもち、よく見たり、考えたり、遊びに取り入れたりする ◎朝顔の生長に関心をもち、進んで世話をする ◎身近な動植物に親しみ、進んで世話をする ◎身近な自然や事象に関心をもち、疑問に思ったことを試したり、調べたりする ◎芋苗植えを通して、地域の方々とふれあいを楽しむ <p>Ⅲ期(9月 10月 11月 12月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎身近な自然や事象を見たり触れたりして、考えたり愛着をもったりする ◎植物の栽培に関心をもち、成長を楽しみに世話をする ◎季節の変化に気づき、収穫を喜んだり、自然物を使って、いろいろな遊びをしたりする ◎地域の方々と芋の収穫を通して触れ合い、親しみをもつ <p>Ⅳ期(1月 2月 3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎小学校入学への期待や喜びをもち、行事や活動を通して自分の成長を感じ身近な人やものに感謝の気持ちをもつ ◎自分の生活にかかわりの深い人達に感謝の気持ちをもつ ◎冬の事象に興味をもち、それを取り入れて遊んだり、植物の成長の様子などから春の訪れに気づいたりする ◎小学校入学への期待をもち、話を注意して聞いたり、活動に頑張ったりする ◎友だちと遊びや生活を進めていく中で、クラスの一員としての自覚をもつ 	<p>Ⅰ期(4月 5月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎教師や友だちと一緒に生活したり、遊んだりする楽しさを味わう ◎自分の好きな遊びを見つけて、気の合う友だちと一緒に楽しむ ◎自分の思いや言葉で表現する ◎戸外で積極的に体を動かして遊ぶことを楽しむ ◎いろいろな素材を使って、思いのままに描いたり作ったりする ◎絵本や紙芝居に親しみ <p>Ⅱ期(6月 7月 8月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎友だちとのかかわりを深め、思いを出し合いながら遊びを広げる ◎友だちと同じ目的をもち、考えを出し合って遊びを楽しむ ◎自分の言いたいことを相手に分かるように話し、友だちの話も聞こうとする ◎さまざまな素材に触れ、試したり工夫したりしながら、表現する ◎絵本や童話、図鑑などを見たり聞いたりし、想像することを楽しむ <p>Ⅲ期(9月 10月 11月 12月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎友だちと、共通の目的に向かって互いの思いや考えを受け入れ合いながら、遊びをすすめていく ◎共通のめあてに向かって、役割を分担したり力を合わせたりして遊びを進めていくとする ◎友だちと遊ぶ中で、互いのよさを認め合ったり、協力し合ったりする ◎友だちとのトラブルを、自分たちで解決しようと考えを出し合う ◎さまざまな素材や用具を利用してイメージを膨らませ、友だちと製作活動に取り組む ◎絵本や物語などに親しみ、友だちと話を共有して、劇や言葉あそびを楽しむ ◎いろいろな楽器や音色に親しみ、友だちと一緒に歌ったり、音楽したりすることを楽しむ <p>Ⅳ期(1月 2月 3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎一人一人が自分らしさを大切にし、互いを認め合いながら共通の目的に向かって遊びを進め、安心感や安定感を味わう ◎友だちとの会話を楽しみ、気持ちの通じ合う心地よさを味わう ◎簡単な文字や数などに興味をもち、ゆうびんやさんごっこを楽しんだり、日常生活に取り入れて使ったりする ◎自分たちで遊び方を考えたり、ルールを決めたりして、みんなで楽しむ ◎トラブルや疑問、困った事などを、自分たちで解決していくとする ◎日本の伝統文化に親しみ、生活の中に取り入れて遊ぶ 	<p>ねらいと内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎自分の身の回りのことを自分でしようとする ◎衣服の着脱、食事、片づけ、手洗いやなどの生活に必要な活動を自分でする ◎幼稚園における生活の仕方が分かり、見通しを持って行動する ◎園生活に必要な決まりがあることを知り、守ろうとする ◎友だちと遊んだり、生活したりする中で、決まりの大切さに気づく ◎危険な場面や遊び方が分かり、安全に気をつけて道具や用具を正しく使う <p>◎ねらいと内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎遊びや生活の中で必要なルールを、自分たちで決めて守ろうとする ◎遊びの中での思いや感情のいきどおしを通して、相手の気持ちを分かろうとする ◎遊びや生活の中で、困ったことや気づいたことを出し合い、ルールや約束ごとを決める ◎いろいろな道具や用具に関心をもち、望ましい使い方を覚える ◎進んで片付けをしたり、当番活動に意欲をもって取り組んだりする ◎食事の大切さを知り、嫌いな物でも食べてみようとする 	<p>予想される主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 砂場あそびが ままごと 大型積み木 ブロック 忍者ごっこ こいのぼりつくり カエル、ゾウグロコシロクサなどの飼育 朝顔、ミニトマトの栽培 よろしくの会(1年生との交流) 等 砂、水、泥あそび 箱、段ボールあそびが かえるごっこ みんなの梅つくり シャボン玉あそびが フールあそびが ヒタ踊りつくり(1年生との交流) 等 運動会ごっこ 秋のお宿屋さんごっこ チャレンジあそび(なわとび、フラフープ、こままわしなど) 表現あそび(合奏、オペレッタなど) バンジー、ヒヤシンスなどの栽培 秋あそび祭り(1年生との交流) 等 お正月のあそび(ゆうびんやさんごっこ、手作りからた、手作りおしろくなど) 鬼つくり 水つくり 凧つくり(1年生との交流) 等 	<p>育みたい資質能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎思いの性質や仕組みなどに感じ取ったり気づいたりする ◎知(長)の基礎 ◎豊かな言葉や表現を身に付ける ◎知(長)の基礎 ◎経験したことや感じたこと、考えたことなどを表現する。(思・考・言の基礎) ◎伝え合い認め合う子 ◎自分と異なる考えに気づき互いの考えを共有する ◎知(長)の基礎 ◎自ら判断したり考え直したりする。(思・考・言の基礎) ◎友だちと考えを共有し、共通の目的に向かって取り組む(作・人) ◎探究心をもち粘り強く取り組む子 ◎考える、予想する、試す、工夫するなどする。(思・考・言の基礎) ◎自分のやりたいことをきまめ、自ら取り組む(作・人) ◎新しい考えを生み出す喜びを味わいながら自分の考えをより良いものにする(作・人)

5. 幼保こ小合同研修会

保育・授業参観及び事後研

保育参観・事後研では

参観シート 園・校名() 名前()

参観する際お願い

*できるだけ姿勢を低くして、参観してください。
*子どもには話しかけず、話しかけられた場合のみ応じてください。
*写真撮影はご遠慮ください。

【参観シートについて】

*子どもの様子、保育者の援助、環境の構成などをよく見て、付箋に記入してください。

○例のように、横向き、横書きで書く

○1つの項目を1枚の付箋に記入

○カードの下部に所属と名前を記入

*このシートは、参観後の研修会でも使います。記入後、忘れずにお持ちください。

◎黄色のカード⇒子どもの姿

主体的、よいなあ、夢中になっているなあ、
おもしろいなあなど感じた子どもの姿

【例】

「小学校みたいや」と場を教室に見立て、
学校で見つけたものを自分でイメージした
ものを工夫してつくっている姿

大分県幼児教育センター 武津

◎ピンクのカード⇒保育者の環境の構成や援助

よいなあ、この環境の構成や援助が子どもの
姿につながったのでは?と思うことを記
入

【例】

参観入場後、子どもたちの感想や思い
を出し合う場を設け、就学を楽しみにする
気持ちを共有したことが、「学校でっこ」
(遊び活動)につながった。

大分県幼児教育センター 武津

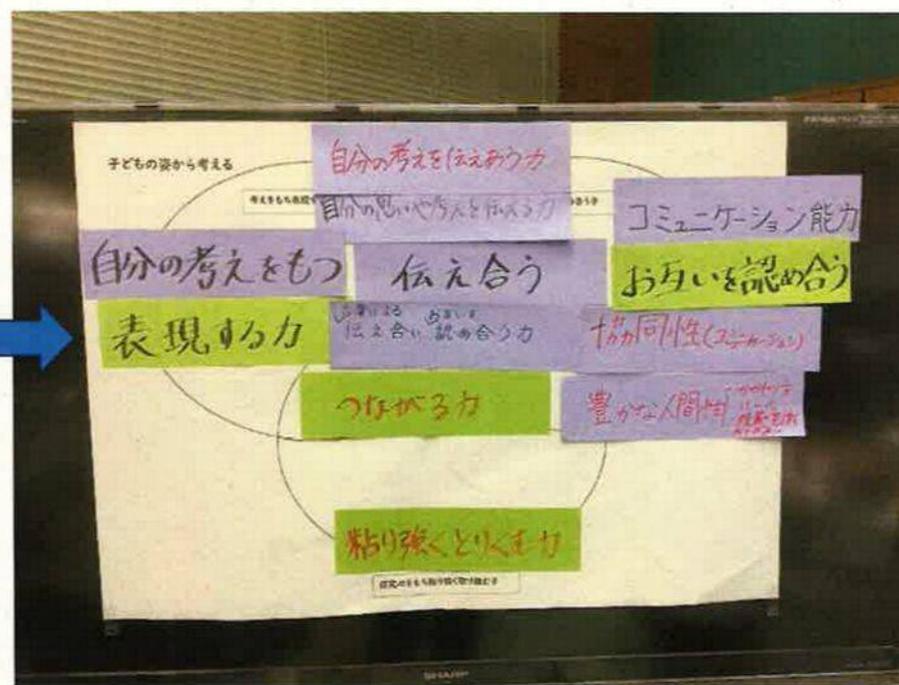
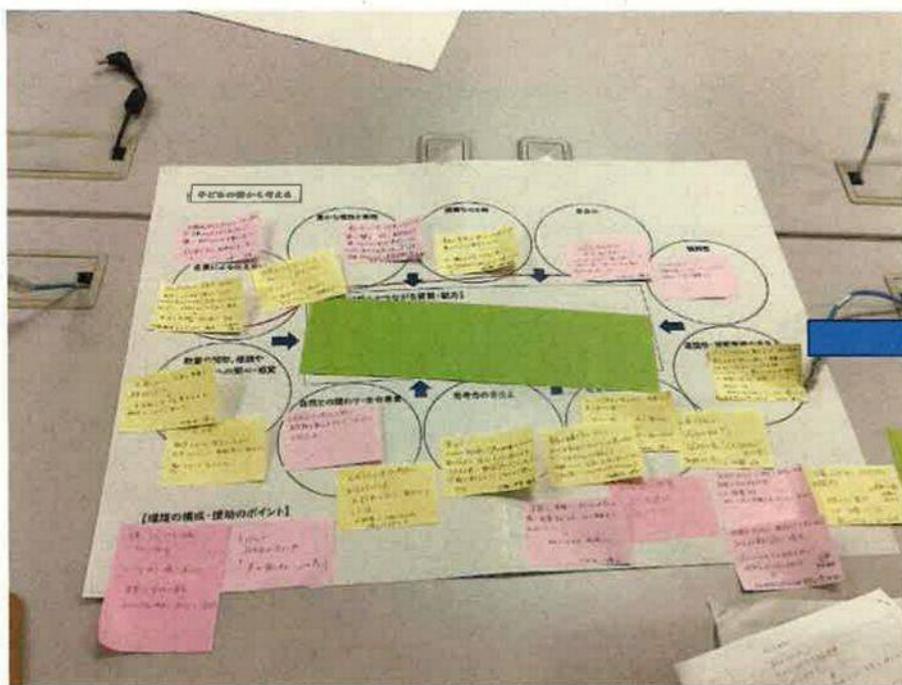


☆互いの教育の理解

☆「期待する子ども像」の検証



保育参観の見取りから「子どもの姿」と「環境構成や保育者の援助」を明らかにし、小学校につながる資質・能力をグループで協議していく。



小学校参観・事後研では



授業参観カード

校・園・所名() 名前()

※子どもの様子、教師の指導・環境づくりなどをよく見て、付箋に記入してください。事後の協議で使用します。

- 例のように、横向き、横書きで記入
- 1つの項目を1枚の付箋に記入
- 一番下に校・園・所名、名前を記入

◎黄色のカード⇒子どもの姿

子どもが全体的に学んでいると感じた姿を記入。

【例】
気付いたことを自分から進んで友達に伝え
ていた。

県幼児教育センター 武津

◎ピンクのカード⇒教師の指導・環境づくり

教師の指導・環境づくりで効果的だと思
うことを記入。

【例】
「5つの頭べるカード」により、観察の視点
を明らかにしたことで、子どもたちの気付き
が広がった。

県幼児教育センター 武津



授業参観の見取りから「子ども
の姿」と「指導」について、明
らかにし、育てている資質・能
力をグループで協議していく。



今回、初めて公開授業、研究協議に参加させていただきました。小学1年生の子どもが友達の話聞くことができている姿に感心しました。今回の南部幼小のカリキュラムを元に、今の保育(あそび)を再度職員で考えてみる機会を作っていこうと思います。(保育所)

架け橋期にねられたカリキュラムを組めば、1年生でも、考えを持ち表現でき、伝え合い、認め合い、探究心を持ち、粘り強く取り組めると実感した。自分の学級でも「五感」を意識して、様々なことに実践していきたい。(小学校)

授業の中で自分たちの経験を振り返った発言をいかに引き出せるか、子どもたちも「知ってる!経験してる!」と自信を持って伝えられる事がよく分かる温かい授業でした。(小学校)

「校区でつながる機会を早く持ちたいな」「子どもを中心に話をしていくとどんなものが生まれるかな」となんだかワクワクしてきました。良い学びをさせてもらいました。(小学校)

幼稚園で行っていることや幼稚園で体験したこと、学んだことを授業に取り入れてくださっており、子どもたちが生き生きと学習している姿、主体的に活動する姿が見られて、素晴らしい授業でした。私も幼稚園の保育について見直したいと思いました。また、グループワークでは小学校の先生方と実りある協議ができ、今後も続けていきたいと思いました。(幼稚園)

合同研修会

授業を通して、子どもたちが安心して学びに向かっていること、表現し伝え合おうとしているところ、とても勉強になりました。協議では保育園の先生ともお話できて、子どもを見る視点についてなど、たくさん知ることができました。(小学校)

今まで、「園は園」「小学校は小学校」という意識がどこかにありました。でも、今日の授業やワークショップを通して、子どもにとってはつながりがあるので、そのつながりを最大限活かしていきたいと思いました。(小学校)

幼保こ小のつながりや継続的な学びを見ることができました。子どもたちの気持ちや考えがたくさん出てきて、とても良い授業だと思いました。スタートカリキュラムだけでなく、2年間というスパンで考えられるよう学びを仕組んで行く必要があると感じました。(小学校)

子どもの体験、発言から課題をつくるのがやはり大事だと思いました。(小学校)

参加者感想

幼児期のプログラムをどのように小学校につなげていくのかという新しい学びがありました。参加してよかったです。(行政関係者)

年長児がいないのですが、架け橋プログラムにつながるような保育の活動に取り組んでいきたいです。(保育園)

今まで以上に幼保小が連携や協働しやすい環境を作っていただけのこと、とてもありがたいと感じています。(保育園)

子どもを真ん中にして、まずは学校種を超えて、教職員、関係者がつながることの大切さを改めて感じました。(小学校)

生活科の授業を見て、幼児教育に近いと感じ、幼小の連携・接続を感じられる提案授業でした。また一つ小学校を知ることができ、日々の保育につなげることができそうです。架け橋期のコーディネーターのお話わかりやすく、架け橋期のカリキュラム作成の流れを確認でき、整理ができた気がします(保育所)

昨年度まで園にいた子どもたちののびのびとした姿を見て安心しました。小学校の先生と意見交換でき、勉強になりました。(こども園)

公開授業での先生の言葉かけにより、子どもが生き生きと活動する姿がとても印象的でした。ワークショップで小学校の先生と幼児教育施設の先生が普段どうしているかという話を聞いて、つながりを生む良い時間だったと思います。今日学びを活かして進めていきます。(行政関係者)

遊びのプロセス 幼①

竹田市立南部幼稚園 6月上旬(6月8日~14日) 「かえるごっこ」

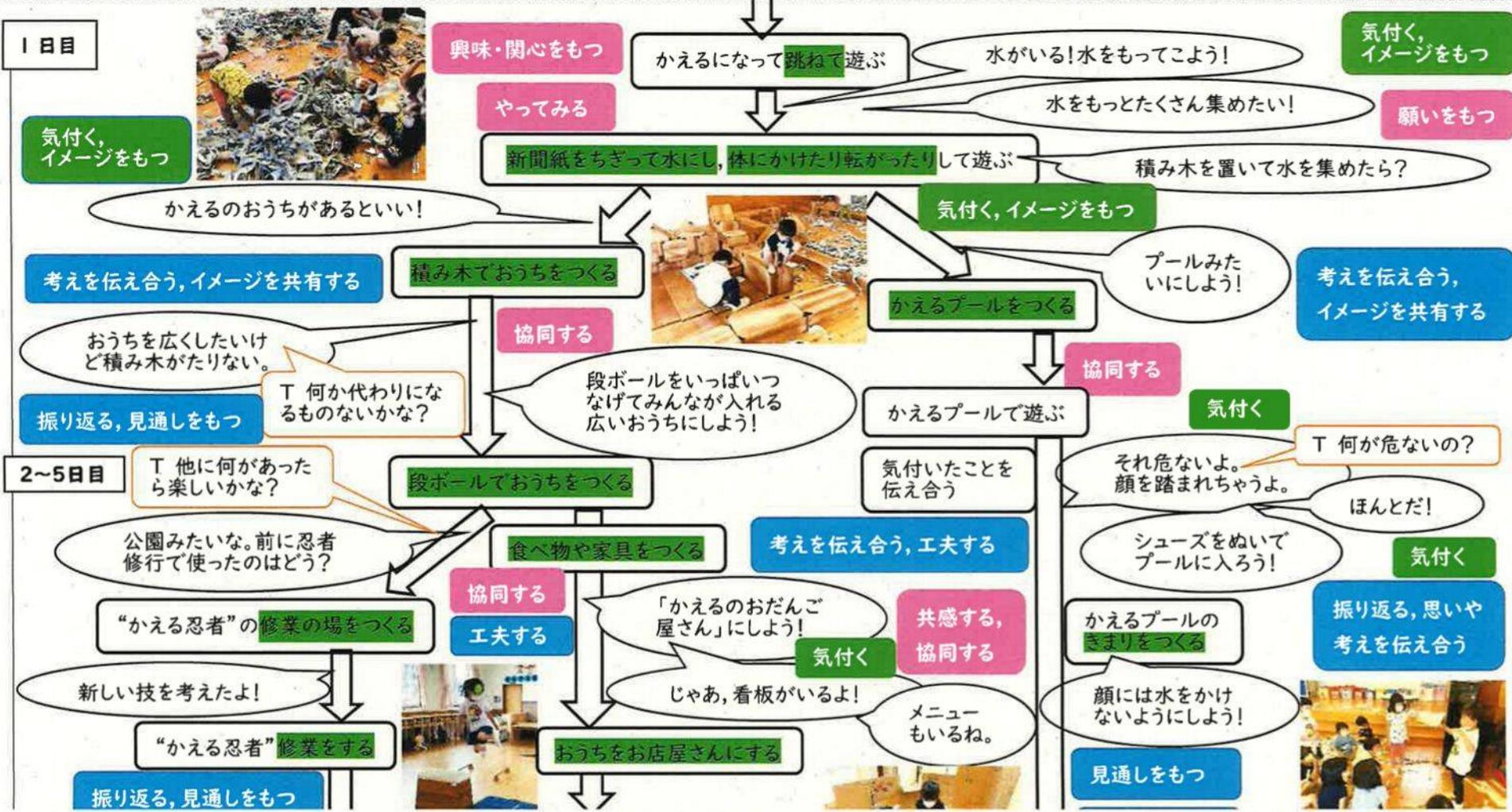
【ねらい】友だちとイメージを共有して一緒に遊ぶ楽しさを味わう。

【内容】クラスみんなで同じイメージをもち、自分の思いを出しながら、遊びを創り出していくことを楽しむ。

【遊びのプロセス】 *遊びの中で育まれている資質・能力を次のように表している

- 知識・技能の基礎
- 知識・技能の基礎
- 思考力・判断力・表現力の基礎
- 学びに向かう力・人間性等

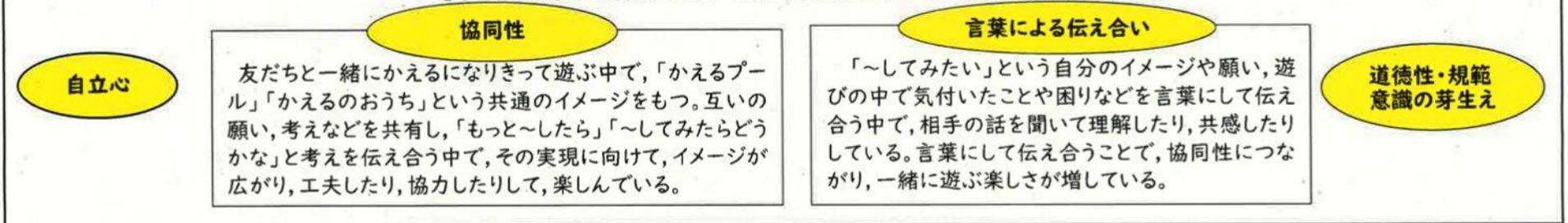
子どもたちは、園庭で見つけたかえるを图鉴などで調べて、飼育し、触れたり餌をあげたりしながら、毎日様子を観察している。保育者は、かえるを飼育して気付いたことを出し合ったり、かえるが出てくる絵本(紙芝居)や歌、体操を保育に取り入れたりして、子どもたちのかえるへの興味・関心を支えている。





<p>□環境の構成・</p> <p>◇援助のポイント</p>	<p>□子どもの思いが実現できるような道具(新聞紙・大型積み木・段ボール箱など)や場の準備, 使いたいときに自分たちで出して遊べるような道具の配置, 状況に応じたタイミングでの素材や道具の提示を行う。</p> <p>◇かえるへの興味をもち, 友だちとイメージを共有して楽しめるような共通の経験をする場を設定する。</p> <p>・かえるの飼育で気付いたことを共有する場 ・かえるが出てくる絵本の読み聞かせ, かえるの歌を歌う, かえるの体操等の経験 等</p> <p>◇遊びが発展していくように, 様子を見ながら言葉をかけたり, 子どものつぶやきや気付きに共感したりして, 周りに広げる。</p> <p>◇共通の目的を意識して遊びを進められるように, 振り返りの場をもち, 思いや困りを出し合い, みんなで共有したり, 相談したりするよう促す。</p>
--------------------------------	--

【本活動・遊びで着目したい「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」】



【小学校以降へつながる資質・能力】

《知識・技能の基礎》	《思考力・判断力・表現力の基礎》	《学びに向かう力・人間性等》
<ul style="list-style-type: none"> ・かえるの生態を, 図鑑などで調べて理解する。 ・新聞紙や段ボールなど, いろいろな素材の性質に気づき, イメージに合わせてつくる。 ・用具の使い方を知り, 使って体を動かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試したり工夫したりする。 ・友だちの考えに触れ, 新しい考えを生み出す喜びや楽しさを知る。 ・自分なりの表現をする。 ・活動を振り返り, 次への見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好奇心をもち, 主体的に遊ぶ。 ・目的を共有し, 話し合ったり, 時には折り合いをつけたりして協力する。

遊びのプロセス 幼②

竹田市立南部幼稚園 6月中旬(6月15日~20日)「シャボン玉あそび」

【ねらい】自分なりに考えたり、気づいたことを友だちと伝え合ったりしながら、試行錯誤して遊ぶことを楽しむ。

【内容】友だちと一緒に、シャボン玉液作りや、シャボン玉遊び用の道具作りをして楽しむ。

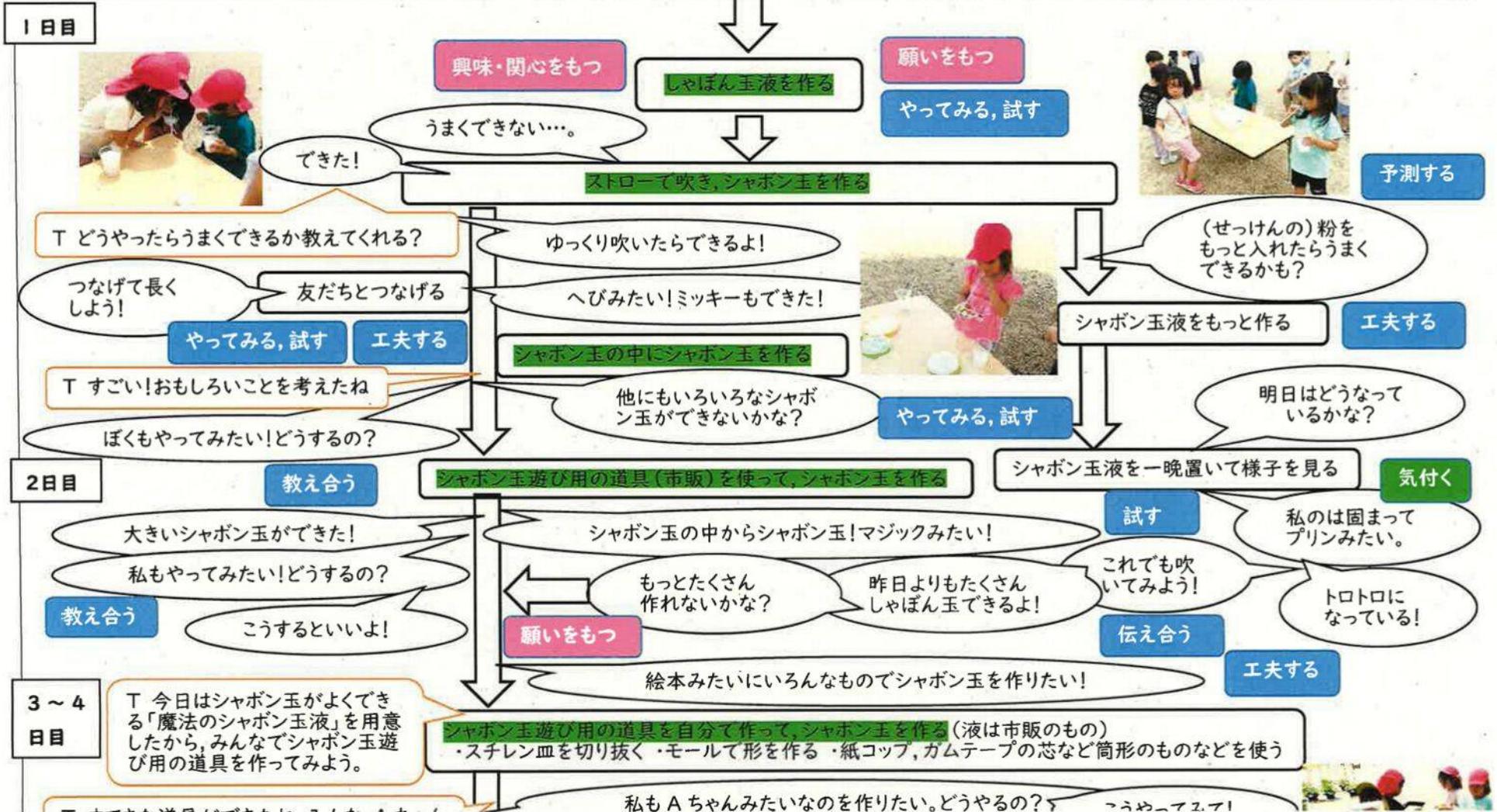
【遊びのプロセス】 *遊びの中で育まれている資質・能力を次のように表している

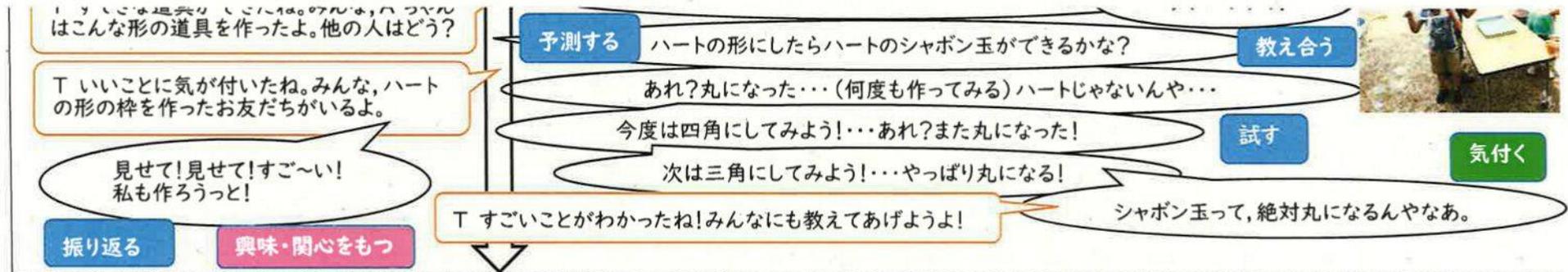
知識・技能の基礎 知識・技能の基礎

思考力・判断力・表現力の基礎

学びに向かう力・人間性等

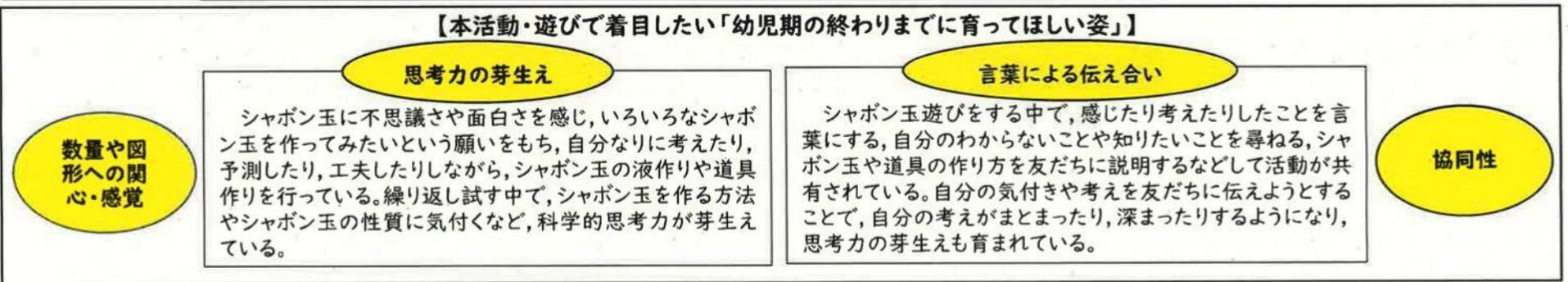
子どもたちは、絵本「しゃぼんだま」を見て、シャボン玉液が自分でも作ることができると知り、「やってみたい」「できるかなあ」と興味をもち、「本当にできるかやってみよう」「わーい!実験!実験!」とシャボン玉作りへの関心を高めていった。





振り返りの場面で、友だちの話から枠の形が変わっても、シャボン玉の形は変わらないことを知り、他の子どもたちも枠の形を変えて試す姿が見られた。その後も、自分で考えたり、友だちのものを参考にしたりしながら自分で作った道具を使い、何度もシャボン玉作りをおこなっていた。また、自分たちで作ったシャボン玉液でも試してみても、「あんまりできないなあ～」「ちょっとならできるよ。」「鏡みたいにならないと、シャボン玉はできないからなあ～」などと、つぶやく姿も見られた。

<p>□環境の構成・</p> <p>◇援助のポイント</p>	<p>□子どもの「やってみよう」という思いが実現できるように、材料や道具（石けん、砂糖、スチレン皿、モール、紙コップやガムテープ・トイレトペーパーの芯など様々な大きさの筒状のものなど）の準備、使いたいときに自分たちで出して遊べるような配置・遊びの状況に応じたタイミングで素材や道具の提示を行う。</p> <p>◇シャボン玉への興味をもち、友だちとイメージを共有して楽しめるような経験（シャボン玉の絵本や歌など）を設定する。</p> <p>◇遊びが発展していくように、子どもの気付きや考えに共感して、まわりに広げていく。</p> <p>◇試行錯誤する楽しさを味わうとともに思いを実現するために「どうしたらいいか」を子どもと一緒に考える。</p> <p>◇共通の目的を意識して遊びを進められるように、振り返りの場では、作ったものを紹介したり、気付きや考えを出し合ったりして、みんなで共有するようになる。</p>
--------------------------------	---



【小学校以降へつながる資質・能力】

《知識・技能の基礎》	《思考力・判断力・表現力の基礎》	《学びに向かう力・人間性等》
<ul style="list-style-type: none"> 石けんと砂糖を使ったシャボン玉液の作り方が分かる。 シャボン玉の性質に気づき、法則性が分かる。 いろいろな道具を使って、シャボン玉を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろなやり方を試したり、工夫したりする。 予想したり比較したりする。 友だちの気付きや考えに触れ、自分の遊びに取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 好奇心や探求心をもつ。 何度もやってみる。 うまくいかなくてもあきらめずにする。

遊びのプロセス 幼③ 竹田市立南部幼稚園 11月上旬(11月2日~15日)「秋のお店屋さんごっこ」

【ねらい】秋の自然物を遊びに取り入れ、友だちと考えを出し合い、工夫したり協力したりしながら、遊びを進めていく楽しさを味わう。

【内容】秋の自然物を使って、友だちと一緒にお店屋さんごっこを楽しむ。

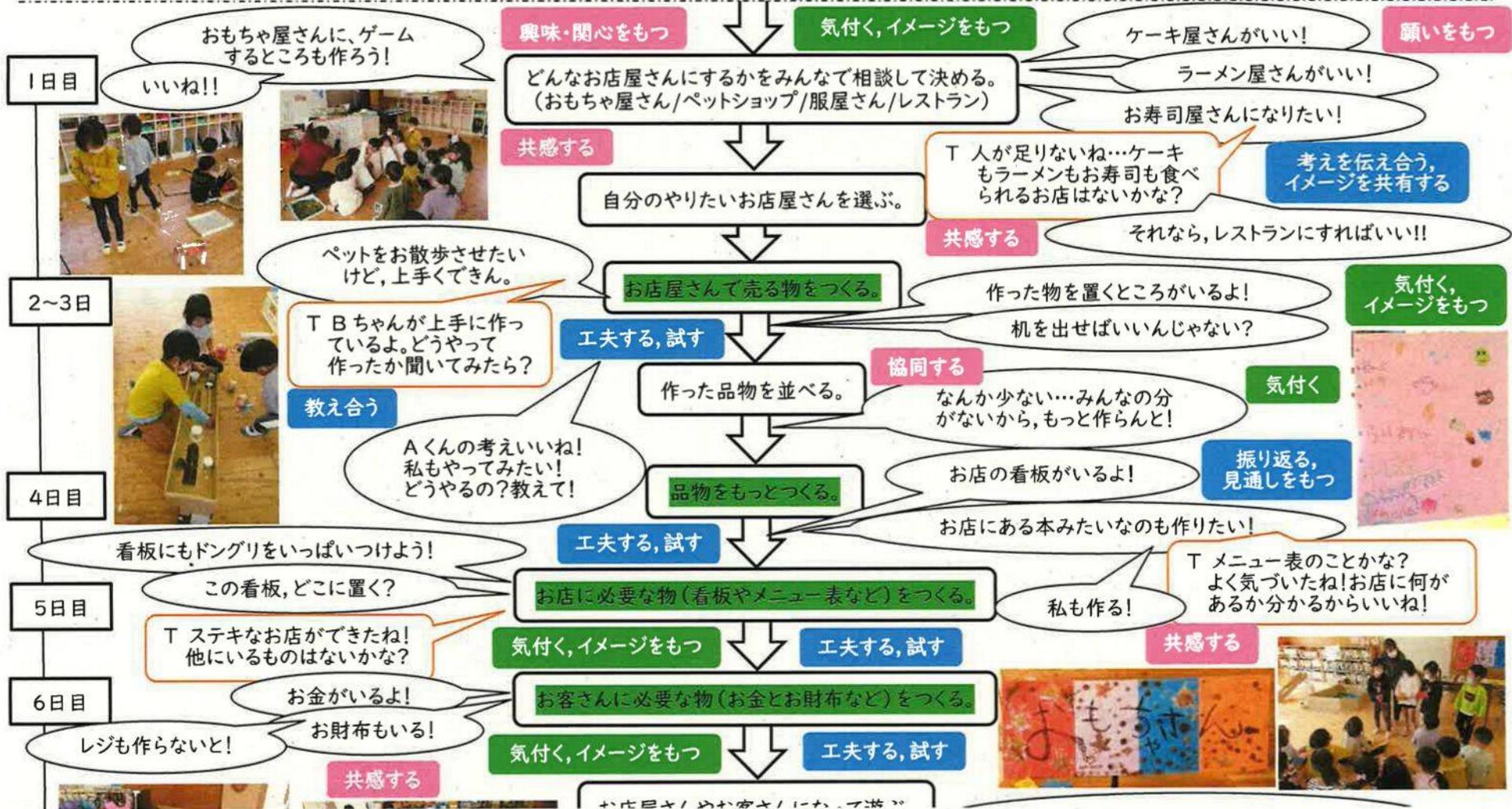
【遊びのプロセス】*遊びの中で育まれている資質・能力を次のように表している

知識・技能の基礎 知識・技能の基礎

思考力・判断力・表現力の基礎

学びに向かう力・人間性等

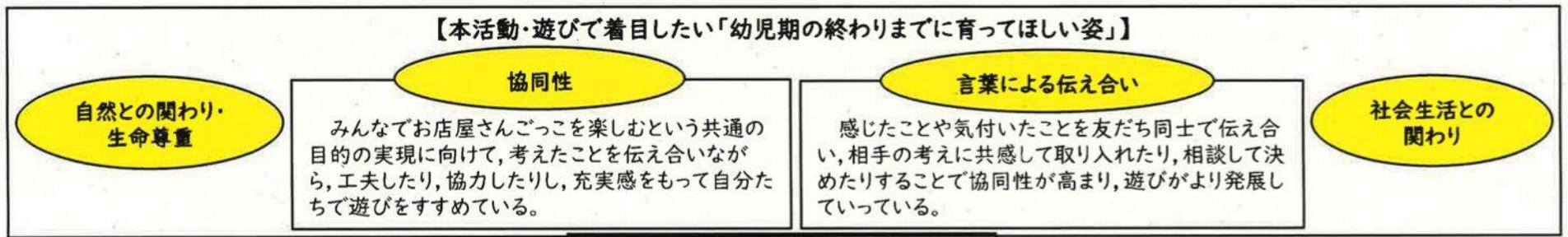
子どもたちは、秋のバス遠足や園外保育で拾ってきた自然物を自分のあそびに取り入れて楽しんでいる。そこで保育者が「ドングリやまつぼっくり、落ち葉を使ってクラスみんなで何かして遊べないかな?」と言葉をかけると、「お店屋さんごっこをしよう!」ということになった。





□環境の構成
◇援助のポイント

- お店屋さんや秋の自然物に関する絵本を読み聞かせたり、絵本コーナーに設置して自由に見たり読んだりすることができるようにする。
- 子どもたちが遊びやすいように、拾ってきたドングリを茹でたり、落ち葉を新聞紙に挟んで押し葉にしたりするなどの下準備をする。また、子どもたちの発想が豊かになるように十分な量を用意するとともに、使いやすいように種類ごとに分けて配置する。
- ドングリやまつぼっくりなどの自然物や、空き箱などの廃材、セロテープなどの道具を使いたい時に自分たちで出して遊べるように配置するとともに、子どもの要望や状況に応じたタイミングで素材や道具を提示する。
- ◇遊びが発展していくように、様子を見ながら声をかけたり、子どもの思いや気付きに共感したりして、周りに広げる。
- ◇共通の目的を意識して遊びを進められるように、振り返りの場では、作った物を紹介したり、気付きや考えを出し合ったりして、みんなで共有するようにする。また、困りに対しては、「どうしたらいいか」をみんなで考えたり相談したりするように促し、解決策を子どもと一緒に考える。



【小学校以降へつながる資質・能力】

《知識・技能の基礎》	《思考力・判断力・表現力の基礎》	《学びに向かう力・人間性等》
<ul style="list-style-type: none"> ・お店屋さんごっこに必要な物に気付く。 ・お店屋さんごっこに必要な物を作るために、いろいろな素材の性質や道具をうまく使い、自分のイメージを実現させていく。 ・お店屋さんとお客さんのやり取りを楽しみながら、関わり方に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試したり工夫したりする。 ・自分なりの表現をする。 ・友だちの考えに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさを知る。 ・活動を振り返り、次への見直しをもったり、遊びをよりよくするためにどうしたらいいかを考えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好奇心や探求心をもち、主体的に遊ぶ。 ・目的を共有し、話し合ったり、時には折り合いをつけたりして協力する。 ・友だちのよさに気付き、自分も取り入れて遊ぶ。

遊びのプロセス 幼④ 竹田市立南部幼稚園 12月上旬(12月5日~15日) 表現あそび「南幼ソーランをしよう!」

【ねらい】共通の目的に向かって考えを出し合い、工夫して表現することを楽しみ、みんなで創りあげていく充実感を味わう。

【内容】発表会に向けて、踊りの内容や見せ方を自分たちで考え、工夫しながら、クラス全員で表現あそびを楽しむ。

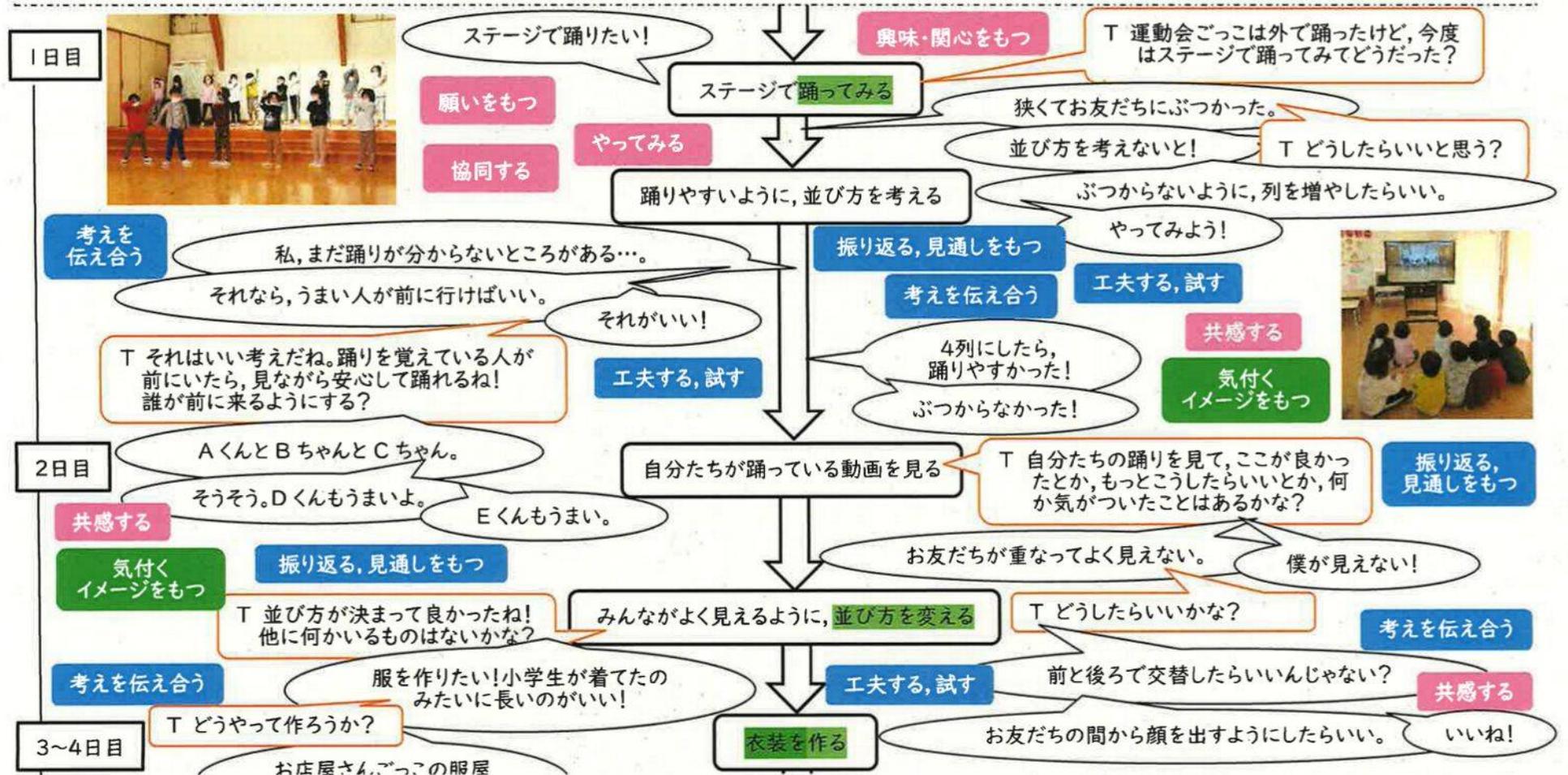
【遊びのプロセス】*遊びの中で育まれている資質・能力を次のように表している

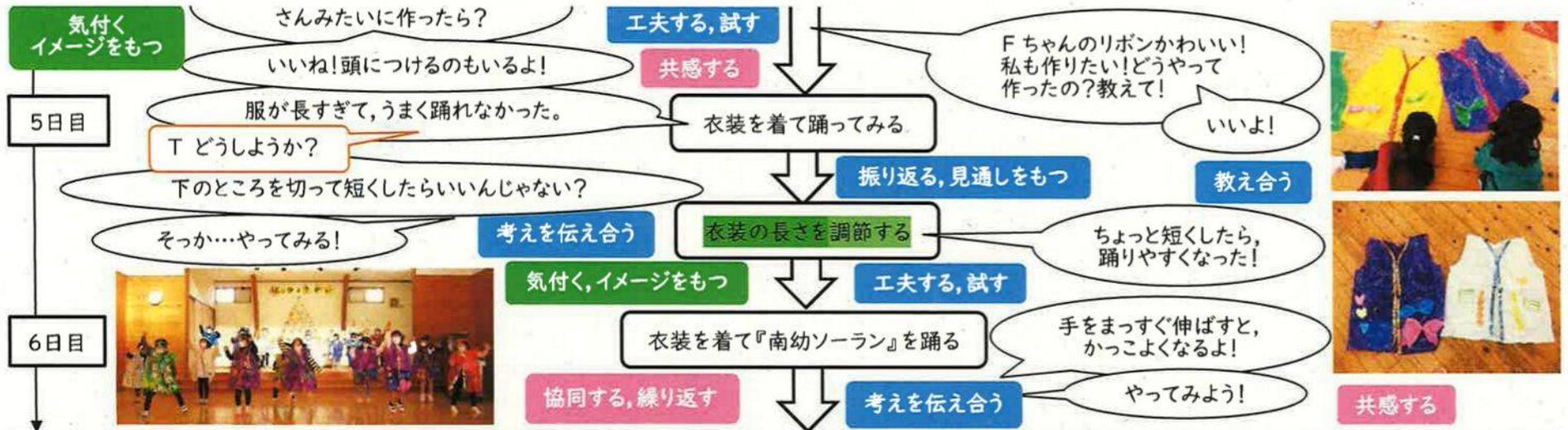
知識・技能の基礎 知識・技能の基礎

思考力・判断力・表現力等の基礎

学びに向かう力・人間性等

9月の幼小合同運動会に参加した子どもたちは、小学生の全校リズム『南小ソーラン』に憧れをもち、自分たちも「踊りたい!」という願いをもった。保育者が小学校からCDを借りてくると、毎日自分たちで曲をかけ、友だち同士で教え合いながら夢中になって踊る姿が見られた。また『運動会ごっこ』でも、『南幼ソーラン』としてプログラムに取り入れ、クラス全員で楽しんだ。11月になり、発表会に向けての表現あそびを楽しむ中で、子どもたちは『南幼ソーラン』をおうちの人に見てもらいたい!というさらなる願いをもち、発表会のプログラムにも取り入れることになった。

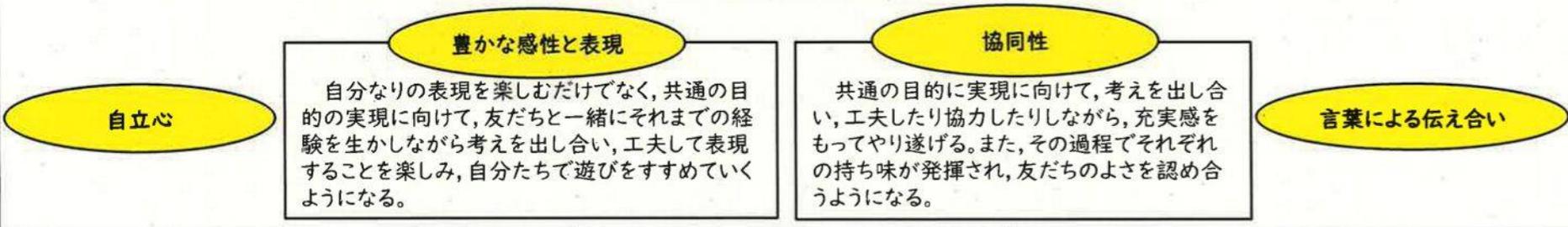




□環境の構成
◇援助のポイント

- 子どもたちが興味をもった『南小ソーラン』の CD と CD デッキを用意し、自分たちで曲をかけてくり返し楽しむことができるようにする。
- タブレットや大型提示装置を活用し、自分たちの姿を客観的に見ることで、もっと良くなるためにどうしたらいいかを考えられるようにする。
- 普段から多様な素材や道具に触れられるよう、また、使いたい時に自分たちで出して遊べるように配置しておくとともに、子どもの要望や状況に応じたタイミングで必要な素材や道具を提示する。
- ◇子どもたちがこれまでの自分の経験をもとに考えたり、工夫したりすることができるように、タイミングを見て声をかけるようにする。
- ◇保育者から働きかけるのではなく、振り返りの場をもち、子どもたちの困りや気づきからどうしたらいいかをみんなで考えるようにする。

【本活動・遊びで着目したい「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」】



【小学校以降へつながる資質・能力】

《知識・技能の基礎》	《思考力・判断力・表現力等の基礎》	《学びに向かう力・人間性等》
<ul style="list-style-type: none"> ・発表会のプログラムとして、みんなの踊りがお客さんによく見えるようにするにはどうしたらいいか、もっとかっこよく踊るためにはどうしたらいいかに気付く。 ・踊りに必要な衣装を自分たちで作し、必要に応じて調整する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことを自分なりの言葉で表現し、伝える。 ・これまでに経験してきたことを活用し、もっと良くなるためにどうしたらいいかを考え工夫する。 ・友だちの気づきや考えを自分も取り入れ、遊びをさらに発展させたり、新しい考えを導き出したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好奇心をもち、主体的に遊ぶ。 ・目的を共有し、話し合ったり、時には折り合いをつけたりして協力する。 ・友だちの気づきや考えに共感したり、友だちのよさに気づき、認めたりする。



自分たちで行ってみよう！⑦⑧

- ・音楽室から行こう。
- ・走ったらだめだよ。

心配なお友だちがいるよ。どうしたらいい？

迷子になったらどうしよう…

- ・手をつないであげる。
- ・行く順番とか決めておく。
- ・おいていかない。

見つけた！はてな？を絵にかこう。

発見！びっくり？を伝えよう⑨⑩

- ・校長室にトロフィーがあったよ。
- ・骸骨を見に行ったよ。

- ・色々な教室を使ってみたい！
- ・お話聞いてみたい。

どんなことを聞きたい？



- ・誰に聞か。どんな質問をするか。お話を聞くときの約束をきめたり確認をしたりする時間をとる。校長先生（校長室）・教頭先生（職員室）・司書さん（図書室）・養護教諭（保健室）に聞きに行く。

お話聞きたいな ⑪～⑭

- ・一番長い本は何ですか？
- ・一番人気の本は何ですか？

見つけたことをまとめよう⑮

- ・ぼくもトロフィーをとりたいたいです。
- ・図書館の本が9000冊もあってびっくりしました。

学校探検で心に残ったことをまとめよう。

探検をふりかえろう⑯

学校探検してみてどうだったかな？

- ・また行きたい。
- ・学校は色々なものがあって楽しかった。

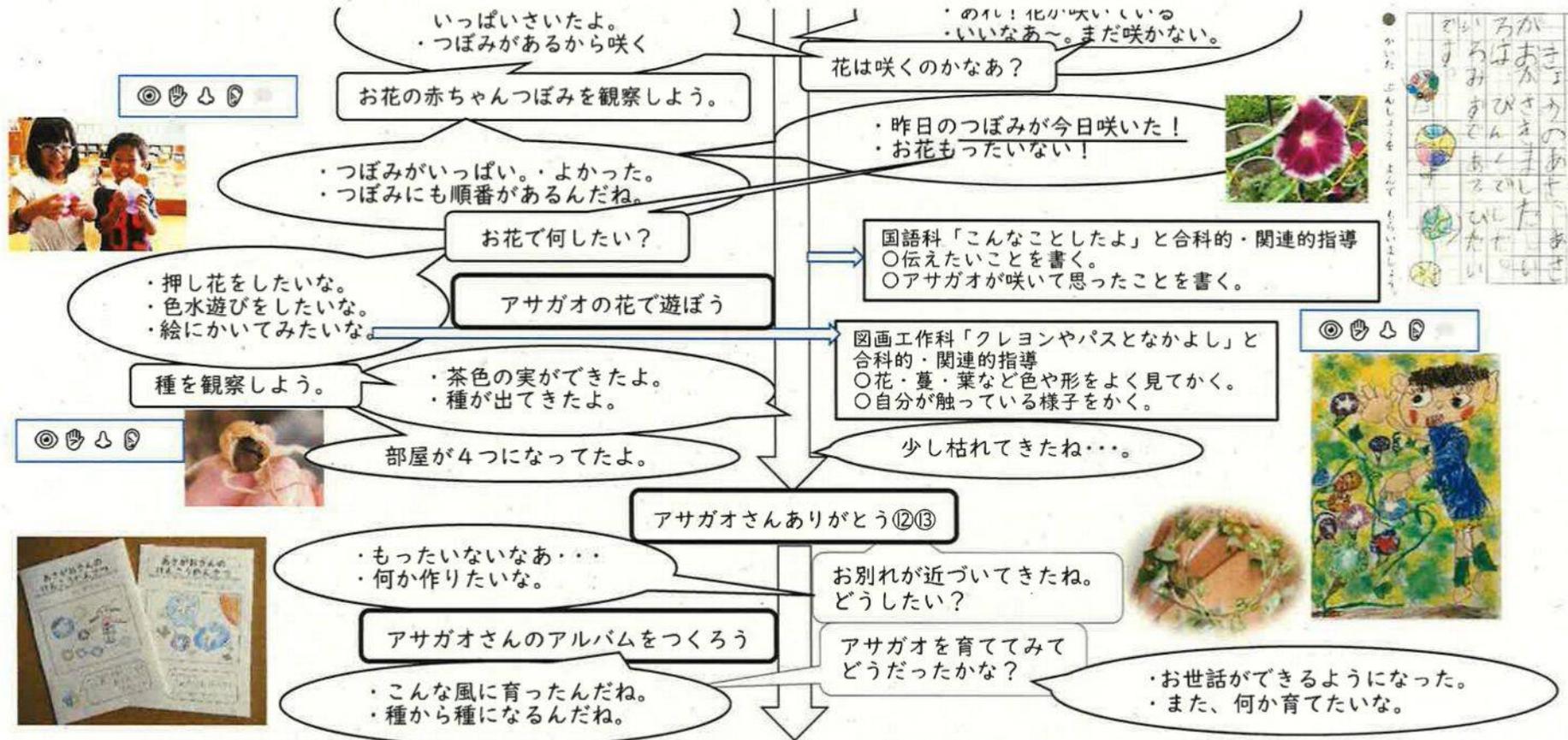


小单元「あんぜんなせいかつ」は、学校行事「スクールガードの方との対面式」や道徳「がっこうまでのみち」と関連して行う。

グループで行く学校探検では、自分たちだけで行くことへの不安な声が出されたが、「どうしたらいいかな？」と問い返すことで、自分たちでよい方法を考え出していた。不安な気持ちだった子ども、助けてくれるということが分かって安心して探検できた。子どもどうしのつながりも芽生えた。

指導上の留意点	<p>◇園の様子を交流し、「小学校はどうか？」と問うことで興味・関心を抱かせるようにする。また、安心感をもって探検できるように、園での過ごし方や約束を交流してから、小学校での新しいきまりを確認していく。小学校も園の延長であることに気づかせる。</p> <p>◇全体での探検では、見たものがわかるように教師が撮っておく。グループ活動では、それぞれが選んで探検したり、見てきたものに違いがあるので、自分たちでタブレットを使って写真を撮らせる。事後の振り返りでは、映像を使い共有していく。</p> <p>◇振り返りを毎時間行い感想やもっとやってみたいことを尋ねることで次の時間につなげていく。 (例：T：もっとやってみたいことは？ C：先生たちにお話聞いてみたかった。 T：じゃあ、お話聞きにいきましょうか？ C：行きたい！)</p>
---------	--

本単元を通して育つ資質・能力	<p>《知識・技能》 学校を探検する活動を通して、学校生活は様々な人や施設と関わっていること、学校生活でのきまりやマナーを守ると気持ちよく過ごせることがわかるようにする。</p>	<p>《思考力・判断力・表現力等》 学校を探検する活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友だち、通学路の様子やその安全を守っている人々と関わるができるようにする。</p>	<p>《学びに向かう力・人間性等》 学校を探検する活動を通して、楽しく安心して学校生活をしたリ安全に登下校をしたリできるようにする。</p>	<p>今後の学習とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2年生 生活「ましが大好きたんけんたい」 ○3年生 社会「わたしたちの町と市」
----------------	---	---	--	--



アサガオに名前を付けた時から、小さな友達のようにお世話を始めた。毎日水をやりながら、手定規を使って生長を喜んだり、健康観察で見つけた葉や蔓、つぼみなどの成長や様子を確かめたりしていた。なによりも、最後まで大切に育てている様子が見られた。

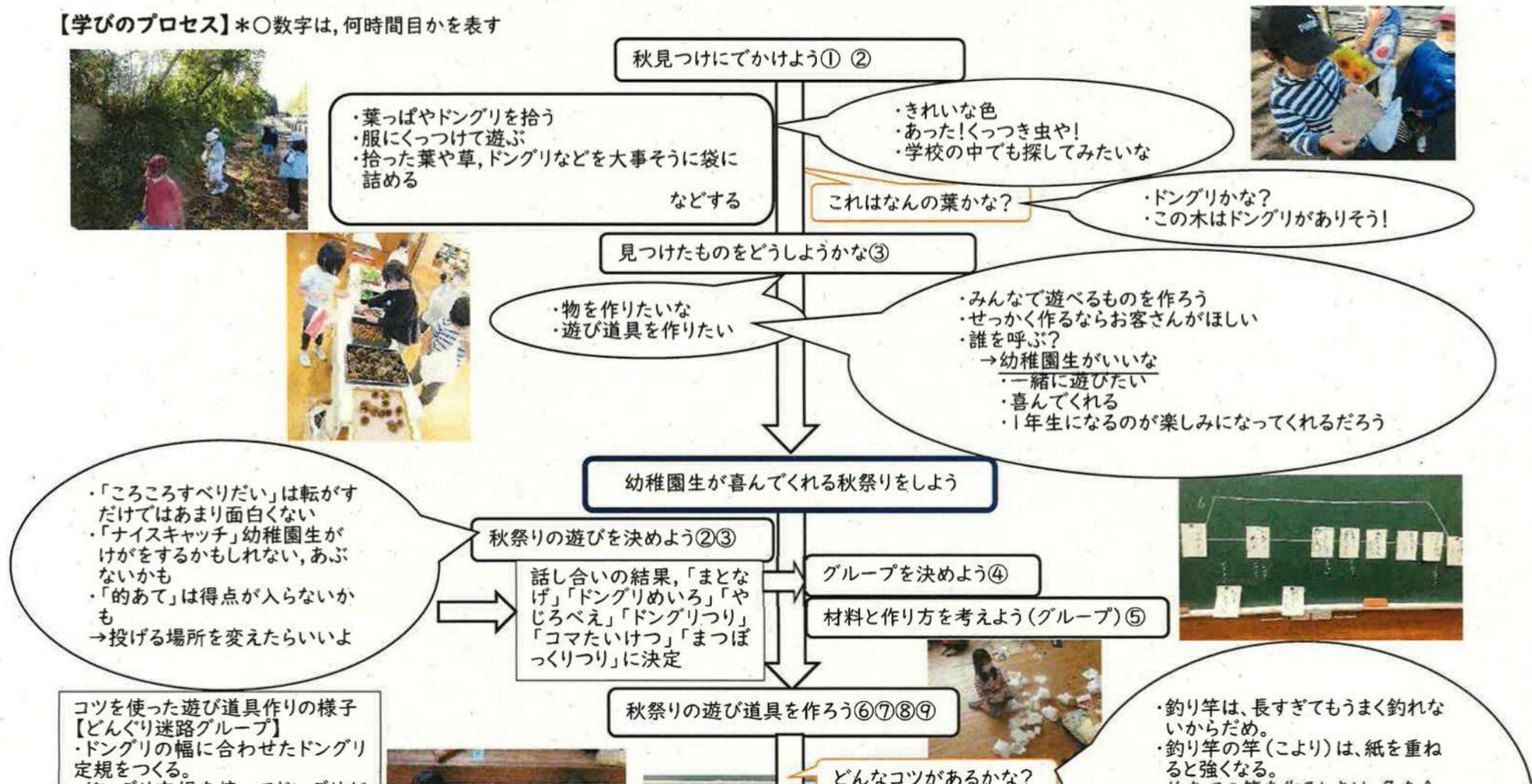
留意上の指導点	◇子どもの気付きから課題を設定 →子どもの困りや不思議を課題にすることで、主体的に予想したり問題解決をしたりしていく →その後の観察に生かす（例：C「つぼみにも色々ある。」T「どれが1番に咲きそう？」C「アイスクリームの上の部分が開いていっているよ」「色が少しずつ出てきているからこの順番！」、次の日C「これ、もう咲くと思うよ！ソフトクリームだもん！」など）
	◇子どものゴールイメージから図工「アサガオの絵をかこう」や国語「こんなことしたよ（作文）」など合科的・関連的な指導を展開する。
	◇園や家庭で育てた経験を思い出させる時間を設ける。
	◇授業時間だけでなく、遊び込めるように色水遊び等を休み時間もできるように準備をしておく。（自由遊びのイメージ）

本単元を通して育つ資質・能力	《知識・技能》 アサガオを育てる活動を通して、育てている植物に合った世話の仕方や、植物が自分と同じように生命をもっていることや成長していることに気付いている。	《思考力・判断力・表現力等》 アサガオを育てる活動を通して、植物が育つ場所、植物の変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。	《学びに向かう力・人間性等》 アサガオを育てる活動を通して、植物への親しみをもち、大切にしようとしている。	今後の学習とのつながり ○2年生 生活科 「めざせ野菜作り名人」 ○3年生以降 理科 ＜植物の栽培＞

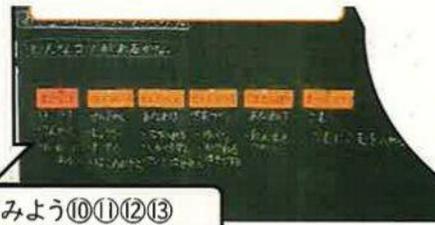
学びのプロセス～小③～竹田市立南部小学校 1年生 10月～11月 単元名「きせつと なかよし あき」(15時間)

単元目標	秋の自然を諸感覚を使って観察したり, 自然物を使って遊んだりする活動を通して, 秋の特徴や他の季節との違いを見つけることや, それらを使って遊ぶ方法を考えたり, 遊びを楽しく工夫したりすることができ, 自然や生活の様子の変化, 自然のおもしろさや不思議さ, 野原や公園のルールやマナーを守って遊ぶことなどについて気付き, 季節を取り入れて遊びや生活を楽しく創り出すことができるようにする。
内容	身近な人々, 社会及び自然にかかわる活動に関する内容 (4) 公共物や公共施設の利用 (5) 季節の変化と生活 (6) 自然物を使った遊び 自分自身の生活や成長に関する内容 (8) 生活や出来事の伝え合い
幼児教育からのつながり	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; background-color: #ffff00;">自然との関わり・生命尊重</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; background-color: #ffff00;">協同性</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; background-color: #ffff00;">社会生活とのかかわり</div> </div>

【学びのプロセス】*○数字は, 何時間目かを表す



トンネルは丸と反対のトンネルが
通る道をつくる
・通り道に沿って、壁をつくる。
・行き止まりやトンネル、お化けの
部屋にするために、屋根を作って
暗闇にするなど工夫をし始める。
・スタートやゴールを書いてあげた
らわかりやすくなるからと作りだす。



・のり（糊）を貼るときは、内とロ
わせるときれいに作れる。
・ドングリごまは、持つ棒の長さを短
くするとよくまわる。
・道が狭かったらドングリが通らな
い。→ドングリの大きさの道をつく
る。

自分たちで遊んでみよう⑩⑪⑫⑬



遊ぶとき、どんなことに
気を付けたらいいかな？

遊びのルールをつくろう(グループ)

幼稚園生が楽しめるようにルールをつくろう

- ・わかりやすい方がいい
- ・けんかにならないように など

作ったおもちゃで遊んで、もっと楽しく遊べるように工夫しよう

- ・お店屋さんとお客さんに分かれてやってみる
- ・やってみて、変えた方がいいところを見つけて伝える



交流会の様子と秋祭りのまとめ



- ・「やじろべえ」は勝敗が決まらな
いから、30秒できたら合格にし
よう。
- ・「まとあて」は担当も決めた方が
いいね。得点を数える人と、やり
方を教える人に分かれよう。



秋祭りをしよう(幼小交流)⑭⑮*活動の計画等は、交流活動資料を参照

長い時間をかけての活動だったが、「幼稚園生が喜んでくれる秋祭りをしよう」というめあてのもと、子どもたちは自分たちで話し合い、工夫し、遊びを創り出そうとしていた。単元の振り返りでは、「作るのが楽しかった。」「幼稚園生が楽しかった。』と言ってくれてうれしかった。」「ルールの説明を考えるのが難しかった。」「いろんな秋が見つかった。」といった感想が出された。どの子も、大変なこともあったがお客さんが喜んでくれたことが自信につながっている様子が見られた。

指導上の留意点

- ◇自然の中で遊んだり、自然のものをたくさん見つけたりできるように、適した場所に、「秋見つけ」に出かける。
- ◇自然物を使って遊ぶ活動ができるように、見つけてきたものがよくわかるように展示したり、作るのに十分な時間を保障したりする。
- ◇「秋祭り」の遊びを決める際は、思考ツールを用い、話し合いにいかせるようにする。
- ◇同じ遊び道具を作るグループで活動できるように配慮する。
- ◇道具を使うときは、安全に気を付けるように指導する。
- ◇作り方のヒントになるように、参考資料を用意しておく。

本単元を通して育つ
資質・能力

《知識・技能》

秋の自然の中で遊んだり、自然物を使って遊んだりする活動を通して、自然の様子や季節の変化、季節によって生活の様子が変わること、自然遊びの面白さや自然の不思議さ、野原や公園のルールやマナーを守って遊ぶことに気付いている。

《思考力・判断力・表現力》

秋の自然の中で遊んだり、自然物を使って遊んだりする活動を通して、秋の特徴や他の季節との違いを見つけ、遊びや遊びに使うものを工夫してつくっている。

《学びに向かう力・人間性等》

秋の自然の中で遊んだり、自然物を使って遊んだりする活動を通して、季節を生活に取り入れ、みんなと遊びを創り出そうとしている。

今後の学習とのつながり

- 「きせつと なかよし ふゆ」
- 2年生 生活科
「作ってためして」
- 3年生 理科
「しぜんのかんざつ」